

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

Ⅰ.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

Ⅱ.家族との支え合い

Ⅲ.地域との支え合い

Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年11月22日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3871200139
事業所名	グループホーム恵須栄
(ユニット名)	恵ユニット
記入者(管理者)	
氏 名	佐伯 恵子
自己評価作成日	平成30年10月28日

【事業所理念】 地域の中 エ 笑顔満開で ス 健やかに エ 円満な日々を イ いきいきと過ごせる場所 私達は地域の中で一生懸命に生 きる姿を真心を込めて支え、地域 の中で笑顔の花を咲かせます。	[前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果] ①理念に即した利用者様の現状に合わせたケアサービスの提供について、職員会・ユニット会(処遇会)・勉強・役職会・各種委員会活動を通じて職員全体で話し合いを行っている。それにより決まったケア方針を職員が共有・実践できるようにしている。 ②運営推進会議の議事内容を家族様に郵送し、ご報告している。次回の運営推進会議ご案内を同時にさせて頂き、参加を促している。また、お電話により、家族様に出席のお願いをしている。 ③避難訓練は近隣の会社に勤めている方や福祉施設に勤めている方等4名の地域の方が参加し、意見を頂いている。職員の緊急連絡網の実践訓練を行った。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 開設後17年が経過する事業所は、大明神川そばの静かな住宅街にあり、敷地内には高齢者住宅を併設している。本来3ユニットであるが、現在は改修中のために2ユニットが稼働している。1階ユニットの共用空間の改装が完了し、広々とした対面キッチンとなったことで、食事の準備をする職員の様子に関心を持ったり、楽しみにする発言も増え、利用者の反応が多く感じられるようになった。目標達成に向けた課題には地道に取り組んでおり、地域のケア拠点としての活動が広がっていくことに期待したい。
--	---	---

評 価 結 果 表

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	定期的なアセスメンや、生活の中で傾聴に努めて、個人の思いや希望を抽出している。	○		○	入居時に利用者や家族から聞き取ったり、生活の中で要望を伺い、把握した情報をアセスメントシートにまとめている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	共感の重要性を理解して家族様との連携、ユニット会、アセスメントにより、本人様の気持ちになって検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	アセスメント作成時や、ご家族様が施設に来られたおりに、話をさせていただいている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	アセスメント表、日報、議事録に記録し保存している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	受容と共感の重要性を理解し、日々、利用者様と接し、毎日の観察、傾聴に努めている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	利用者様とのコミュニケーションの過程で、情報の抽出は行えている。ご家族様とは、入所時、来所時、ケアプラン作成等の機会に、都度お話を聞いている。			○	利用者や家族、これまで利用してきたサービス事業所から情報を得ており、これまでの暮らし方などについて把握している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	日々の介助や対応、コミュニケーションの中で状態を把握し、ユニット会等で、検討している。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	各担当者の掘り下げた観察と日々の対応の中で、個人個人の特性は、把握できている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	◎	様子観察、声掛け傾聴に努めその都度、心情の把握に努めている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	関わりの中で、生活リズムは把握出来ており、変化や違いについても申し送りにて情報の共有がなされている。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	利用者様の思いや願望について処遇会等において毎回、検討している。			○	把握した情報をもとに、処遇会や日々の申し送りで話し合い、利用者や家族の思いに沿えるように検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	処遇会、アセスメント、モニタリング等により、ニーズの抽出は常に行っている。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	処遇会、アセスメント、モニタリング等により、介護課題の抽出、検討は常に行っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人が より良く暮らすための 介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	施設での生活として、極力、意向に沿った内容になる様に努めている。	/	/	/	家族の来訪時に意向を伺い、課題等を共有している。処遇会で把握した意向を踏まえた上でプランについて検討し、家族には運営推進会議や行事参加等の面会時に意見をもらっている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	来所時に、ご家族様の話を聞き、利用者様の意向と共に、それらを考慮した計画作成に努めている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	極力、利用者様の意向に沿った生活が送れるように検討している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	必要に応じてご家族様の協力を得られる体制になっている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた 日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	担当者だけでなく、全職員が把握できるように書面化、閲覧できる様になっている。	/	/	○	処遇会で介護計画の内容を職員間で共有し、毎月モニタリングしている。毎日の支援記録は電子化され、職員が個々に入力しているが、記入量や内容などについて職員による個人差がある。介助の方法や声かけについて職員から意見も出されているが、利用者の暮らしの様子や支援内容のより具体的な記録と併せて職員の気づきやアイデアの記録も望まれる。また電子記録のメリットを活かした見直しや振り返りができるように検討して欲しい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	ケアプランチェック表により日々の結果を記録し、状況確認や対応につなげている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	時々のケース記録を残し、具体的な状況等、情報の蓄積に努めている。	/	/	△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	様々な情報を、処遇会、職員会の議事録、ケース記録に蓄積している。	/	/	△	
6	現状に即した 介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	利用者様の変化及び、決められた期間での見直しを随時行っている。	/	/	◎	基本的に6か月で見直しを実施し、毎月のモニタリングで現状確認を行っている。利用者の状態に変化がある場合は、その都度家族や医療機関と話し合い、介護計画の新たな見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	処遇会を月に一度、開催し、現状の確認を行っている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	変化に即した計画になるように、その都度、家族様や病院等と相談し、対応している。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月、職員会、処遇会等を開き、課題等について話あう場を設けている。	/	/	◎	毎月の職員会、その後に各ユニットで処遇会を開催することで、チームケアを行う上での課題解決の場としている。緊急案件があれば、申し送り時に相談や検討を行っている。議事録を作成し、参加できない職員も確認後に押印し、伝達漏れがないよう努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	発言に制限は無く、自由な情報交換をすることが出来る場を設け、意見交換するよう努めている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	シフトの関係もあるが、当日の夜勤者以外は全ての職員が参加できる様に配慮されている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	議事録を必ず作成し閲覧できる様になっている。また、参加した職員からの申し送りにより、正確に把握することができる。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送り帳と、口頭による報告等により、必要な情報を共有している。	/	/	◎	面会した家族からの連絡事項を含め、職員間で伝達すべき内容は申し送りノートを活用し、職員は各自確認して押印している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送り帳と、日々の状況をケース記録に保存しており、随時閲覧可能になっている。	○	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	毎日各利用者様の個別ニーズの抽出、把握を行い、レクリエーションや趣味活動など、叶える努力をおこなっている。				絵画が趣味で、没頭すると昼夜を問わず描き続けてしまう利用者もいるが、体調に影響のない範囲でしたいことができるように利用者と相談しながら支援している。起床や就寝時間、レクリエーションへの参加等、過ごし方は利用者に選んでもらうように努めている。利用者が楽しさを感じることができるよう、接遇面にも配慮しながら声かけを行っている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	食事や整容、レクの内容や、創作活動等で、自己決定する機会や場を作っている。			○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	声掛け、傾聴、受容、共感を重視し、拒否が強い時は時間をずらしたり待ってみたりして、日々の対応に努めている。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	利用者様のリズムで日々の生活が送れるように工夫して支援をおこなっている。				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	常に、接遇を意識しつつ距離感を大事に、少しでも楽しんで頂ける様に接している。			○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	明確な意思疎通が出来ない場合でも、表情やジェスチャー等を観察し、状況に応じた対応に努めている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	ケースにもよるが、尊厳を重視し、より良い関係を築ける様に常に意識して対応する事を心がけている。内部研修として、他事業所の管理者や看護師の監査を受け指摘してもらうなど、プライバシー等の勉強、改善を行っている。	○	○	○	人権や尊厳に関する勉強会の開催や処遇委員会の活動を通じ、理解を深めている。声かけはきめ細かい心遣いと丁寧な態度で行うように指導している。居室への出入りはノック・声かけを基本として、利用者により了承を得て入室している。扉を開放して欲しい、常時閉めて欲しい等、利用者それぞれの希望を確認して対応している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	一人一人に合った声掛けを心掛け、きめ細やかな心使いと丁寧な態度をとるように努めている。			○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	トイレや浴室前にカーテン等の仕切りを設けてプライバシーに配慮している。				
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	職員が入室するときは、声掛け等を行い、了承を得て出入りする等、配慮しながら行っている。			○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	プライバシーに関する教育は明確になされており、コンプライアンスは重視されている。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	コミュニケーションの一環として、教えを乞うたり、洗濯物を畳んでいただいたり、食器拭きなどをお願いして助けていただいており、感謝の言葉を必ず言うように努めている。				利用者同士の相性を把握し、席替えをしたり、場合によってはユニットを変える等の対応を行い、誰もが心地良く過ごしてもらえるように配慮している。他の利用者を軽視したような態度や発言をする利用者もいるが、間に職員が入って揉め事に発展しないよう注意を払っている。少し距離を置くことにより関係性が改善した例もある。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者様間の関係性の重要さを理解し互助の関係を築ける様に援助させていただいている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	関係性の把握に努め、利用者様の座る位置やレクリエーション時に観察して、より良い環境を作れる様に配慮している。			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	適切な対処法を検討し、より良い関係を築ける様に支援し、問題の解決に努めている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	ジェノグラムによる人間関係やキーマンの把握は出来ている。コミュニケーションを密にとり、協力体制を構築している。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	生活歴や個人情報の把握の上に、利用者様や家族とコミュニケーションをとり質を高めている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	◎	病院受診、外泊、お出かけ等、ご家族様に協力していただき、地域の人々や、ご家族様と触れ合う機会を設けている。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	少しでも、利用者様や、家族様が心地良く過ごせる様に配慮している。清掃や礼儀にも気を付けている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。（職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない）（※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む）	○	定時の散歩や、ご家族様との外出、外泊以外に、毎月行事を企画し、外出する機会を作っている。天候に左右されず、重度利用者様でも楽しんでいただけるような、獅子舞、御神輿などのイベントも行うようにしている。	△	×	×	年間計画を立て外出行事を実施し、家族との外出や外食を定期的に行っている利用者もいる。現在2階ユニットの利用者は、隣接する施設のエレベーターを利用しなければ1階に降りられないため、自由に戸外へ出られるよう早めの改修が望まれる。重度の利用者も含め、ベランダや玄関周りでの外気浴や散歩を行っているが、取組みが日常的に実施できるよう改善を図って欲しい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	地域で開催される盆踊りに参加したり、地域の敬老会へ参加したり等、企画し実施している。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	定期的に散歩に行くほか、野外のベンチで過ごして頂いたり、施設前に子供神輿や獅子舞などを観覧するイベント等を行っている。			△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	施設の行事として、紫陽花、桜を見に行ったり、ドライブに出かけたり等を企画し実施している。				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	勉強会で、認知症の知識についての教育は行っており、根拠に基づいた要因の推測や、取り除くためのケアに努めている。				自分でできることはできるだけ利用者にしてもらうように支援しているが、対応する職員やその日の状態によっては介助を希望される場合もあり、利用者の体調にも配慮しながら対応している。半年ごとにできること・できないことについてアセスメントを見直し、適切な介助方法を検討している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴（筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等）を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	利用者様、一人一人の残存機能を把握し、日々の生活の中でADLの低下を防ぐように取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。（場面づくり、環境づくり等）	○	「できること、できそうなこと」は、自分でして頂く様に見守り、出来ない事について、手助けするよう努めている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	個人の嗜好や特技はを把握し、利用者様の能力に応じ、お手伝いをして頂いている。				積極的に家事を行ったり、絵画や歌を楽しむ利用者もいる。利用者ができそうな作業に誘い、気持ちに刺激を感じてもらえるように支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	個性に合わせた役割としての手伝いの依頼や、特技や趣味を取り入れたレクをおこなったり、作品の展示などの場を設けている。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	◎	地域で開催される盆踊りなどの行事に参加したり、地域の方の協力で子供神輿や獅子舞などの鑑賞をしていただいている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	整容の過程で、概ね把握している。ご家族様に協力して頂いて、季節感のある服や、お気に入りの服を持って来て頂く等をしている。				季節に合った衣類選びのサポートや、出張理美容サービスを活用している。散髪や毛染めを希望に応じて行い、身だしなみが整うように配慮している。重度な状態であっても、利用者や家族と相談しながら好みを取り入れた支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	選択できる利用者様は、本人の意思を尊重し、援助が必要な場合は適切な支援を心がけている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	声掛けや選択肢の提示をし、利用者様の意向を尊重している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節感や、気温など、状況に合った物が選べるように支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	気になる乱れは、その都度適切な対応をさせていただいている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	定期的に理容師に出張して頂き対応しており、希望のある方は、ご家族様に協力して頂いて、馴染みの店に行って頂く様にしている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	定期的な理容や、毎日の整容で希望に沿うように努め、乱れている時は、直ぐに整えるよう心掛けしている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	摂食嚥下のプロセスを十分、理解した上で対応している。				業者から調理済みのものが届くため、職員は各ユニットで炊飯と汁物の準備を行っている。予め決まっているメニューであり、利用者のリクエストに応じた細やかな変更はできないが、お花見弁当や芋炊きなど、季節行事の際に工夫して提供している。調査時には、どの利用者も食卓で配膳を待っている状態であり、食事を楽しむプロセスの一つとして積極的に準備や片づけに参加してもらえるよう努めて欲しい。入居時のアセスメントで好みやアレルギーの有無については把握している。食器は事業所で用意したものを使用しているが、食器の選び方や盛り付けに工夫を加えることで、華やかで楽しい食卓を演出できるのではないかと感じられた。職員は、食事のサポートや見守りを行っているが、利用者の食後に休憩をとっており、食事を共にしていない。重度の利用者も他の利用者と共に香りや雰囲気を楽しみながらリビングで過ごしていた。給食会議を開催し、食事に関する話し合いを実施している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	準備、片付けが出来る利用者様には、食器拭きや片付け等を一緒に行っている。			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	利用者様には食器を拭いたり、後片付けを行う。他の利用者のお世話をする事で役割を感じて頂ける様に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所時の情報提供、摂取量や、コミュニケーションにて、把握出来ている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	夏には、かき氷会、秋には芋炊き会などの行事で、季節感のあるものを提供している。季節を感じてもらえる様なイベントを行っている。			△	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	○	体調や身体機能を考慮して提供方法を検討しているが、出来るだけ工夫して彩や盛り付けを考えて提供している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	個人の能力に合ったもの、使いやすいものを使用させていただいている。			△	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさげなく行っている。	◎	食事介助、食事の様子を観察し、一人一人の状態に合った対応を検討している。			×	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	ホールに隣接したオープンキッチンで調理を行っており、食事前に口腔体操なども行い雰囲気は十分に作られている。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	個性や、状況に応じて対応している。バランスを考え、声掛けにて水分摂取を促したりしている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事が摂れない原因を話し合い、摂取しやすい様に一口大や刻み対応したり、声掛けにより摂取をうながしている。場合によっては、医師、看護師に相談して対応している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	給食会議において、意見や感想などの情報を集めフィードバックしている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食材は適温にて管理し、調理後の摂取までの時間も設定し、管理している。台所の布巾等の消毒を毎回行い、衛生管理に努めている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	入職時オリエンテーションや、業務中の指導により十分に理解できている。				アセスメント表では、義歯の有無の記載があり、セルフケアが行える利用者にも声かけを行って確認する職員もいた。定期的に全利用者の口腔内の健康状況を記録し、把握していくことが望まれる。痛みや不調の訴えに応じて、家族と連携して歯科受診につなげている。必要な介助については、先輩職員から新人職員へ口頭で指導したり、申し送りノートで情報共有する形をとっており、利用者にもできることをやってもらいながら支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	◎	毎食後、口腔ケアを行う時に、口腔内の状態をチェックし、歯磨き、義歯の手入れ等を行っている。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	外部研修の参加を予定しており、その後勉強会にて内部に周知する取り組みをする。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎日、口腔ケアと手入れを行っており、夜間は専用洗浄剤を使って手入れをしている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）	◎	口腔ケアの声掛け、見守り介助を、毎日行っている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	異変が感じられたり、訴えがある場合は、ご家族様に連絡し、受診の相談をしている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	勉強会等で、心理的、身体的影響について十分理解して仕事に取り組んでいる。				夜間はポータブルトイレを使用する利用者もいるが、声かけによりトイレでの排泄が可能な利用者がほとんどである。立位がとれない利用者に対しては、職員2名体制で対応している。またアセスメントの実施により、その時々状態に合った排泄用品の選定を行っている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	勉強会等で、知識について理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	◎	排泄記録により、利用者様のパターンの把握を行っている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	個人のパターンに合わせたトイレ誘導と、三時間毎のトイレ誘導に努め、利用者様にとって適切な、おむつ類を検討している。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	原因を探り、処遇会等で検討して対応策を話し合っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄表を作り、排泄表をみて早めの声掛けや誘導を行っている。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	利用者様の意向や、ご家族様の意見を取り入れながら、看護師と連携している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	○	日中と夜間を使い分けるなど、利用者様の状態が維持できる様に努めている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	◎	バリエーションを増やした水分補給や、歩行練習などの呼び掛けを行い対応している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	◎	ホームとしては、週2回の入浴を実施している。入浴の順番など、利用者様の希望にそって行い、入浴時間や温度は、都度、本人様の希望を聞くように努めている。	◎		○	週2回の利用日は事業所で決めているが、利用者の気分や体調によって利用日を変更したり、臨機応変な対応に努め、希望に応じて長さや湯温を調節しながら支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	都度、声掛けを行い、湯船に入る時間を考慮している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	本人様が出来るところはして頂き、出来ないところは支援して差し上げる。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	声掛けや、タイミングを工夫し、入浴して頂く様に努めているが、拒否が強い方は、日を改めて対応している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタル測定を行い、状態を確認している。入浴の可否について、判断が付き難い時は、医師、看護師と相談している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜勤者の記録や、朝礼の申し送り等によって、情報の共有に努め、職員、全員が把握する事が出来ている。				利用者は概ね安眠できている。睡眠導入剤が処方されている利用者については、主治医とも相談し、できるだけ少量でコントロールできるよう慎重に支援している。利用者にとって快適な状態での暮らしになることを最優先に、適切に処方をしてもらうため主治医とは十分に相談している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中に体操や運動を取り入れたレクリエーション等に参加を促すなど、日中の過ごし方に工夫を行っている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	睡眠導入剤や安定剤の使用にかんしては、医師、病院の指示に従い、服用してもらい、変化が有った時は、看護師、医師に相談し、連携をとっている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	昼食後ソファや居室のベットにて適時、休んで頂く時間を設けている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	必要に応じてご家族様等への連絡を行えるように配慮している。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	必要な時には、職員が間に立ち橋渡しの対応を行っている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	必要に応じて対応させていただいている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	年賀状等、利用者様にお渡しし、返事等の確認と、対応をおこなっている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	必要に応じてご家族様にも協力していただける様にお願いしている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	大切さについては、理解できている。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	必要に応じて、ご家族様に協力して頂き、お買い物に行って頂くようにしている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	必要に応じて、ご家屋様に協力して頂き、外泊や外出時に、買い物に行っていただくようにしている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	随時、ご家族様と話し合い、納得していただいている。利用者様同士の金銭の貸し借り等のトラブルがあった為、ご家族様にはご理解、ご協力していただいている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	ご家族様と話し合い、納得していただいている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。（預り金規程、出納帳の確認等）。	◎	預かり金規定を整備しており、管理方法を整えている。金銭管理ができない利用者様に関しては、会社が立て替え払いをして、レシート等とともに、後日精算している。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	ご家族様の希望や状況、本人様の意向に応じて、利用者様に適切な介護サービスを提供できるよう、近隣の施設と協力関係を構築し、柔軟に対応を行っている。	◎		○	家族による受診等の外出時、介護タクシーの利用を提案した例がある。快適に外出ができると喜ばれており、家族の負担軽減にも配慮して支援するよう心がけている。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者が家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽 に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をして いる。	○	毎日清掃を行い、ベンチを置いて休める場所を作る等、立ち寄り易い環境作りを工夫している。	○	○	△	1階ユニットは、スロープを設置して段差を解消し、植木や花壇の手入れが 行われ、利用者と一緒に作った小物が飾られた和やかな玄関まわりとなっ ている。2階ユニットは現在改修中であり、正面玄関の利用ができず裏口を 使用しているため、通行に注意が必要で、気軽に出入りすることは難しい。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物 品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。 （天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要な ものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な 雰囲気をそぐような設えになっていないか等。）	○	ソファを置いたり、台所の前にカウンターを作る等、くつろげる雰囲気になる様工夫し、季節に応 じて花や、レクリエーション等で作成したものを飾るなどしている。	○	○	○	1階ユニットはキッチン・リビングを改修し、広々とした空間になっている。リ ビングや廊下にソファやベンチを設置し、利用者は思い思いの場所でのん びりと過ごすことができている。スペースが限られている2階ユニットでは、 整理整頓に努め、快適に過ごすことができるように工夫している。廊下には 絵画が得意な利用者の作品を展示したり、季節感のある手芸品等を飾って いる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮 し、掃除も行き届いている。	◎	こまめに清掃を行い、汚れたら都度きれいにする様、職員全体で取り組んでいる。	/	/	○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働き かける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生 活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫 している。	◎	季節に応じた花や壁画づくりで季節感を感じてもらえる様に工夫している。	/	/	◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気 配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしてい る。	◎	ホールのテーブルが2つあり、仲の良い利用者様同士で座って頂いたり、各居室は広く、シャワー やトイレを配してプライベートにも配慮できるようにしている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工 夫している。	◎	トイレは各居室にあり、浴室はプライバシーが守られるように設置されている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている。	◎	入居時に利用者様の使い慣れたタンスや、道具を持ち込んでレイアウトしている。	○	/	○	自宅より使い慣れた家具を持参している利用者も多く、写真や絵を飾って 快適な空間となるよう工夫している。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかる こと」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送 れるように配慮や工夫をしている。	◎	トイレがひと目でわかる様に、表示したりして、利用者様が出来ることをスムーズに行える様工夫し ている。	/	/	○	居室入口の表札やトイレの表示など、利用者が迷わずに自分で移動がで きるよう工夫している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討 し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫を している。	○	危険と思われるものを、利用者様が使われる時には、職員が見守りをして使って頂く様にしてい る。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつで も手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれて いる。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の 品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞、雑誌などは手に取れる所にさりげなく配慮し、急須等危険があるものは、職員が見守れる様 にしている。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟) の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解してい る。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの 異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきら め・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメ リット等)	○	勉強会等により、身体拘束の勉強を職員全体で取り組み施錠をしない空間作りを心掛けている。	◎	◎	△	勉強会で、鍵をかけることの弊害について学びの機会を設けている。施錠 はしていないが、2階ユニットの改修にあたり、通行に注意が必要な裏口を 使用したり、隣接する高齢者住宅のエレベーターを利用しなければ屋外に 出られないため、利用者が自由に出入りすることが難しい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図って いる。安全を優先するために施錠を望む家族に対して は、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族様に対しては、入居時に説明しており、施錠を望む家族様に対しては、身体拘束適正化委員 会において作成した指針を閲覧できる様にしている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理 的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなく もすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把 握、近所の理解・協力の促進等)。	○	日中は、基本的に鍵かけずにオープンにしている。夕方不穏傾向が強くなる方には、声かけ等 により気を紛らわせる様に努めている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や 病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入居時に、健康診断書、アセスメント等をもとに、それぞれの病名病歴を理解している。入居後の入退院時に対しては、看護サマリーを参照し把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎日バイタルチェック行い、全身の様子を踏まえて、観察し職員間で情報の共有を図っている。記録はパソコン入力、または血圧、食事、排泄などの数値を記入し、異常が把握できるようにしている。パソコン入力し異常値は赤字で入力される。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重症化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	異常があれば早めに医療機関、かかりつけ医に受診して頂いている。家族様、ケースワーカーなどを通し、医師からの指示のもと、重症化しないよう援助し必要な場合は入院につなげている。				
31	かかりつけ医等の 受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	一人一人の今までの受診内容を理解し現状を家族様に伝え相談し、希望される病院へ受診するよう支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	利用者様、家族様の意向を伺いそれぞれのかかりつけ医への受診を行い、月に1回から2回の往診にて投薬等行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院は家族様または介護タクシーなどを利用しお連れして頂いている。異常時は必要に応じてバイタル食事量、体重等をグラフ化し持参してもらい、医師からの情報を伺い、スタッフ間で内容を共有している。				
32	入退院時の医療機関との 連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	ホームでの生活状況を知っていただく内容をサマリーとして情報を共有している。(ADL、病状、服薬状況、精神状態、排泄状況、認知度、介護度等)				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院中の状態を家族様やケースワーカーを通し、早期退院できるよう相談したり、実際に病院へ伺い面会して回復状況を確認したりしている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	二か月に一度の運営推進会議等を通したり、利用者様の体調の変化をこまめに連絡している。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	利用者様の変化や異常をすぐに口頭、申し送り帳に伝えてスタッフ間で共有できるようにしており、訪問看護師や社内の看護師に必ず情報が伝わるようにしている。また異常時はすぐに医師に相談するようにしている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	オンコールマニュアルによって体制をとっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	身体的、精神的状態を観察し、把握に努め、早めの対応を行っている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	利用者様の病名に応じて、処方されているお薬について書面で確認できるようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	薬を一包化して服用しやすくしている。朝昼夕の見分けがしやすくなるようにラインを引き、配薬のボックスの工夫やダブルチェックを行い誤薬しないように注意している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	心身の安定をはかれるよう、薬の調整ができるように援助している。向精神薬の副作用でふらつき、便秘の誘発など理解し対応している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	副作用等を理解したうえで、血圧、体温、排泄などの記録を把握し、異常があれば情報の提供を行っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重症化した場合は、状態変化や段階によって家族様の意向を確認し、訪問看護をまじえて話し合いを行い対応している。				看取り指針を作成し十分に検討しているが、現状としては看取りは実施していない。管理者は、設備の面もあり、重度化や終末期の利用者に対する支援については課題が多いと感じている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	重症化した場合は、医療機関やご家族様と職員や訪問看護スタッフ等との場を持ち、今後の方針をその都度検討し共有している。	○		△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	管理者は状態変化があった場合は職員間、病院のスタッフと話し合いを行っており、内容によっては、医療行為を病院受診で対応している。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入所時に、異常、急変時に、事業所において「できること」と「できないこと」をお伝えし、医療行為についての説明、理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	GHでの共同生活が困難になった方には、特養への入所を支援したり、終末期を迎える方は、病院家族との連絡を密にし、変化があった場合は、医療機関へ連絡し対応している。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	○	それぞれの家族様の不安や事情を考慮し、対応している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	勉強会を定期的に行い、実際の対応方については、感染症対策マニュアルを作成している。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	感染症対策マニュアルを参考にしており、予防の為に温度湿度の管理、トイレ、手すり、テーブル等を、毎日数回消毒している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	行政からの通知や感染症の時期になるとインターネットを通じて、最新情報を入手している。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	県のHPより、感染症発生状況を確認したり、医療機関との交流の中で情報収集をしている。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	感染症の時期になると、不急の面会を控えたり対応をしている。毎日手指消毒行ったり、マスクの着用等、予防を行い、共有スペースでない場所で面会をして頂くようにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	家族と職員は悩みなどを気さくに話して頂けるよう関係を築くことで、ご本人様を支えることができる。				家族に対し運営推進会議や行事参加の誘いを積極的に行っている。就労している家族も多く、参加者は限られているが、面会の時間帯について柔軟に対応し気軽に面会に来てもらえるよう工夫している。写真入りのユニット通信を事業所内に掲示して面会時等に見てもらうことや報告書を郵送している。事業所の運営上の事柄について家族が理解を深めることができるように伝え方の工夫が必要であり、特に関わりの深い職員の異動などの報告について検討して欲しい。家族の面会時には、積極的な声かけに努め、気軽に思いが伝えやすいように配慮している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	日頃から面会に来られた時など家族様が話しやすいよに、挨拶や対応に気をつけている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	春のお花見や夏の夏祭りや秋の芋炊きなど、季節行事に参加できるようにしている。	◎		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月のユニット通信で本人の日常の様子や体調をお知らせしている。また2か月に1回「たより」の新聞を発行している。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	運営推進会議などで家族様から知りたいことや疑問に思うこと、不安なことなどの質問を受け、それに対して具体的な回答を行っている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族と本人のこれまでの関係を把握し、ご本人の理解に努め家族様との関係が良いものとなるように支援している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	行事の案内状を送付したり、hplにて告知したりして、行事の参加を促している。また、設備の改修等も直接お話してご説明し、ご理解とご協力をして頂いている。	×		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	季節行事参加などで家族の交流ができるようにしている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	転倒や体調において起こり得る事を、必要に応じて家族様に説明し、そのなかでも、できる事を見つけ毎日の暮らしが安心して楽しいものになるよう支援している。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	病院受診時や面会時に声をかけ、気軽に話して頂けるよう、礼儀や接遇に気を付けている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的に現状に沿った説明を行い、疑問等あれば質問していただき理解して納得を得るようにしている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	契約に基づく退去について決定過程を十分説明し、なお今後のことについても家族等と話し合い、安心して退去先に移行できるよう支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時は、重要事項説明書で説明し、料金改定時は口頭で説明し、同意書を得ている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域の人達に参加して頂き説明をいろいろ行い納得していただいたうえで設立し出来上がった時には見学や遊びに来ていただいている。	/	○	/	地域の小学校の学習発表会を見学に行ったり、子供みこしが事業所に来てくれる等の交流がある。事業所が実施している芋炊きには、家族の他に地域の方にも参加してもらっている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	◎	近所で会う人には挨拶を心掛けている。盆踊り大会、芋炊き、お祭りなど、地域の人達と交流も出来ている。	/	△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	行事に参加して下さる家族や地域の人と行事に参加して、顔なじみの関係を構築するよう努めている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	あいさつや声掛けをしているが、遊びに来られることはほとんどない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	散歩等で外に出たときに地域の人と会えば声掛けをしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	◎	定期的にボランティアの人をお呼びし、歌を歌っていただいたり楽器を演奏したりしてもらい、利用者様と楽しい時間を過ごしている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	◎	市の相談役が定期的に来てくださり、支援して頂いている。職員も利用者様の出来る事の手助けをし、安全に暮らしを楽しんで頂ける様に取り組んでいる。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み		地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	◎	近隣の福祉施設の協力を得て、夏祭りにさんかしたり、2か月に一度ずつ理美容室の方に来てカットをして頂いたりして、地域の方と関係を深めるよう努めています。利用者様も、お話され喜ばれている。	/	/	/	管理者は参加者にとって魅力的な内容になるよう努めている。利用者の生活状況の報告や季節に応じた情報提供、評価への取組みについて報告している。運営推進会議で出された意見等が、どのように運営に活かされているのか参加者には理解が難しいとの意見があるため、伝え方に工夫が必要である。
		a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	運営推進委員会には利用者様、家族様、民生員会様、市の相談員様、地域医療連携室関係様、包括支援センター様、地域の皆様等に参加して頂いている。	○	/	○	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	外部評価自己評価の内容等運営推進会議において報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	毎回出された意見や提案を事業所で話し合い日々の取り組みやサービスに取り入れている。	/	×	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	参加メンバーの日程について調整を行ったり、事前にアナウンスしたりして参加しやすいよう努めている。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	地域包括支援センターには毎会報告しています。いつでも閲覧可能にしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	朝礼の際に、事業所理念を復唱し、職員全体で共有できるよう努めている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	来所者が、事業所理念を見えやすいところに掲示し、伝えるように努めている。	×	×		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	管理者や職員一人一人のケア力を鑑み、外部研修を受けている。内部においては、毎月の勉強会で職員全体で知識の習得に努めている。				管理者は必要に応じて職員との面談を行い、個別に話を聞く機会を持つよう努めている。代表者も事業所を頻繁に訪れており、管理者だけでなく職員とも交流ができています。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	実務において、個人的に指導する期間を設け、毎日の業務のなかで、介護技術の向上につなげるよう指導をしている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	毎月の自己評価で職員の努力目標をあげてもらい、それに対して実行できているか評価している。また、労働時間や職場環境においても、休憩時間の取得簿や休憩室の設置などにより、改善向上させている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	近隣の福祉施設と協力し、管理者職員は、同業者と交流したり、勉強会に参加したりして、意識や知識の向上を図る取り組みを行っている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	管理者、役職者、職員にストレスや悩み、トラブルがないか、会議や個人面談を行い対応している。又、問題を解決する取り組みや施策を話し合い、実施している。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	身体的拘束適正化委員会や接遇から高齢者虐待について勉強会を行っている。				身体拘束廃止に関する指針を作成しており、気になる声かけ等があれば職員同士声をかけ合っている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	申し送り時、処遇会等において利用者様の現在状況について話し合い、ケアに反映させる様努めている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	ユニットリーダーやホーム長に速やかに報告し、職員への指導教育プログラムを実施するよう体制を構築している。また、発生した場合は、職員会等、全体で話し合う機会を設けることになっている。			◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	定期的に管理者、役職者、看護師が職員及び利用者様の心身等を観察し注意を払っており、それを元に、代表者へ報告、連携を行っている。				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	定期的に勉強会等で身体拘束について学び、身体拘束適正化についての指針を常時閲覧できるようにしている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	定期的に勉強会、研修等において知識の修得に努め、利用者様の状態に応じて、ベッドの位置や車イスの位置等、点検し、処遇会等で話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族様から拘束や施錠の要望がある場合は、都度説明して、ケアの方法について話し合っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	勉強会や内部研修において、知識の修得に努めている。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	家族様から相談が寄せられた場合は、居宅介護支援事業所及びケアマネージャー等、専門員と連携し、適切なアドバイスが行えるよう努めている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関（社会福祉協議会、後見センター、司法書士等）との連携体制を築いている。	○	包括支援センター職員を含む西条市介護支援専門員連絡会に参加して成年後見制度やその他の制度を外部の勉強会として学び、情報交換を行っている。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	研修や勉強会にて教育している。研修の資料をマニュアルとして掲示し周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	研修に参加したり、訓練や勉強会でも対応に触れ知識を習得している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故報告書、ヒヤリハットともに記録に残し、職員間で検討し再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	状況や、状態の変化に伴い、処遇会等で、都度、対応を検討し、実行している。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	苦情対応のマニュアルを作成し、職員にも周知し、対応についても検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	必要に応じて、速やかに対応している。また、市の担当課にも連絡し、対応策等についてアドバイスを頂ける様にしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	必要に応じ対応し、話し合い、ご家族様等と、良い関係作りに努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。（法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等）	◎	日々、利用者様の意見や要望の収集に努め、相談窓口を設置し、運営推進会議等でも機会を設けている。			◎	利用者や家族からの苦情等に対しては、対応マニュアルを整備しており、対応フロー図も分かりやすく明記されている。職員からユニットリーダー、管理者、代表者へと意見の吸い上げができており、相談体制が整備されている。いずれの場合も、管理者は迅速に対応することを心がけている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。（法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等）	◎	相談窓口や意見箱を設置している。また、運営推進会議等で、意見や要望を伝えて頂く機会を設けている。	◎		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	随時、苦情や相談ができる窓口があり、重要事項説明書にも掲示し、適時情報提供させていただいている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	都度、機会を設け、意見や提案等の吸い上げに努めている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	常に職員の意見に耳を傾け、利用者様本位の支援が行えるように前向きに検討している。			◎	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	サービス評価の意義目的を理解し、全員で日頃から取り組んでいる。				自己評価については職員全員で積極的に取り組んだが、管理者は、家族や地域の方の理解はまだ十分ではないと感じている。報告の仕方を工夫し、評価への関心と理解が得られるような取組みに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	事業所の現状や課題について、毎月の職員会や役職会で話し合い改善に努めている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	各種会議等で利用者様の現状や課題・要望について話し合い、利用者様が地域に参加できるような取り組みや、心身の状態に合わせたケアサービスの提供に取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	目標達成計画は掲示板に掲示するなどし、評価結果表をいつでも閲覧可能な状態にして備え付けている。	×	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	①については、処遇会で利用者様への取り組みの結果を報告し、より良いケア サービスの提供に努めている。③は、避難訓練に地域の方々4名に参加していただき、地域の声を職員会議等で報告する。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	防災マニュアルは作成し、閲覧可能な状態にしている。				近隣の施設や事業所の協力も得て避難訓練を実施している。今後は、家族や地域の方との訓練の実施や、協力支援体制の構築に向けた取組みに期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中、夜間等についての時間を想定した訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	施設設備の点検を定期的に行っている。地域の福祉施設と協力して点検を行い、備蓄、備品の整備を行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	合同の訓練や話し合いは行っており、協力支援体制の構築に努めている。	×	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	消防に避難訓練へ参加して頂き、近隣の福祉施設や会社と災害対策について取り組んでいる。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	行事の参加時等で、地域の人に認知症ケアについての情報を発信している。				地域の方から認知症に関する個別相談が寄せられる機会が増えてきている。今後は、地域に向けて、相談支援に対応できる事業所であることをさらに積極的に発信、周知していくことで、地域のケアの拠点としての活動の広がりにつながることに期待したい。他事業所の行事イベントに参加するなどの地域活動が行えており、今後も地域の関係機関と協働しながら活動していくことに期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	地域の人から、介護について相談される場合は、お話を聞き適宜アドバイスができるよう努めている。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	行事で事業所に招待し、地域の人に来ていただき交流を図っている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	近隣施設の介護職員の受け入れを行い、相互の人材育成を推進している。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	他施設の行事イベントに参加したり、地域の祭り、敬老会等に参加したりして、地域活動に関われるよう努めている。			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

Ⅰ.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

Ⅱ.家族との支え合い

Ⅲ.地域との支え合い

Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年11月22日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3871200139
事業所名	グループホーム恵須栄
(ユニット名)	栄ユニット
記入者(管理者)	
氏 名	佐伯 恵子
自己評価作成日	平成30 年 10 月 28 日

【事業所理念】 地域の中 エ 笑顔満開で ス 健やかに エ 円満な日々を イ いきいきと過ごせる場所 私達は地域の中で一生懸命に生 きる姿を真心を込めて支え、地域 の中で笑顔の花を咲かせます。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①理念に即した利用者様の現状に合わせたケアサービスの提供について、職員会・ユニット会(処遇会)・勉強・役職会・各種委員会活動を通じて職員全体で話し合いを行っている。それにより決まったケア方針を職員が共有・実践できるようにしている。 ②運営推進会議の議事内容を家族様に郵送し、ご報告している。次回の運営推進会議ご案内を同時にさせて頂き、参加を促している。また、お電話により、家族様に出席のお願いをしている。 ③避難訓練は近隣の会社に勤めている方や福祉施設に勤めている方等4名の地域の方が参加し、意見を頂いている。職員の緊急連絡網の実践訓練を行った。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 開設後17年が経過する事業所は、大明神川そばの静かな住宅街にあり、敷地内には高齢者住宅を併設している。本来3ユニットであるが、現在は改修中のために2ユニットが稼働している。1階ユニットの共用空間の改装が完了し、広々とした対面キッチンとなったことで、食事の準備をする職員の様子に関心を持ったり、楽しみにする発言も増え、利用者の反応が多く感じられるようになった。目標達成に向けた課題には地道に取り組んでおり、地域のケア拠点としての活動が広がっていくことに期待したい。
--	---	---

評価結果表

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	アセスメントの段階で本人様の希望や意向を聞き出している。	○		○	入居時に利用者や家族から聞き取ったり、生活の中で要望を伺い、把握した情報をアセスメントシートにまとめている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	アセスメント時に本人様の発した言葉を中心に日頃の発言等を考慮して処遇会等で検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	家族様と外泊や受診の際に接触する機会があるため、その時に本人様と共にアセスメントをしている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	アセスメント表に本人の暮らし方の思いを何ヶ所か(食事・入浴等)を記入する欄があり整理している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	毎月の処遇会で管理者・介護員・看護師・ケアマネ等、様々な立場での視点で意見を交換し合っている。また担当者が普段の何気ない言葉やしぐさを見落とさないようにしている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居時やケアプランの更新の時期等にキーパーソンより、アセスメントとの一環として確認させてもらっている。生活歴も入所から長く経っている利用者様にはホームでの様子も加味して変化を見落とさないようにしている。			○	利用者や家族、これまで利用してきたサービス事業所から情報を得ており、これまでの暮らし方などについて把握している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	毎日の利用者様の微細な変化でも申し送り帳に記載して、一人一人の心身の状態を連続性をもって把握できるようにしている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	アセスメント表に利用者様の精神状態や、その表出する特徴を記載する欄を最近増やした。ケース記録でも不安になる場面はなるべく詳細に記載するようにしている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	◎	Cの小項目とほぼ同様にしている。それでも把握しきれない場合は処遇会で意見を交換し合っている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	24Hシートは導入していないが申し送り帳に日勤帯と夜勤帯ごとにその変化を記入している。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	処遇会にて日頃の利用者様の様子を勘案して本人様の主訴を検討している。			○	把握した情報をもとに、処遇会や日々の申し送りで話し合い、利用者や家族の思いに沿えるように検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	処遇会にて本人様や各職員の意見を参考にしている。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	処遇会にて本人様にとつての「生きやすさ」とは何か？を主眼とした課題を炙り出すようにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人が より良く暮らすための 介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	可能な限り本人様の思いや意向をプランに反映できるように心がけており、より実現可能な目標に近づけている。	/	/	/	家族の来訪時に意向を伺い、課題等を共有している。処遇会で把握した意向を踏まえた上でプランについて検討し、家族には運営推進会議や行事参加等の面会時に意見をもらっている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	処遇会で出る様々な意見やアイデアを常にプランに盛り込むように努めている。その場合でも現実との剥離が顕著な場合は再度本人様に確認を取らせて頂いたり、担当者利用者様の間にケアマネが介在し折衷案を模索している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	本人様の生活歴や日頃の行動パターンを考慮して、無理のない自然体で行える範囲でプランは作成している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族様と必要に応じて協力を得られる体制になっている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた 日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	毎日ケアプラン評価表で内容を把握、理解するようにしている。どの職員も毎日目を通すことで共有はできていると考えられる。	/	/	○	処遇会で介護計画の内容を職員間で共有し、毎月モニタリングしている。毎日の支援記録は電子化され、職員が個々に入力しているが、記入量や内容などについて職員による個人差がある。介助の方法や声かけについて職員から意見も出されているが、利用者の暮らしの様子や支援内容のより具体的な記録と併せて職員の気づきやアイデアの記録も望まれる。また電子記録のメリットを活かした見直しや振り返りができるように検討して欲しい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアプラン評価表をもとに処遇会で確認を行っている。プランに沿って記録も書くように努めている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	具体的な言葉・表情やしぐさのほか会話形式で記録するように心がけている。	/	/	△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	考察による具体的な工夫やアイデアは申し送り帳やケース記録に記入している。また、処遇会でも個別に記録している。	/	/	△	
6	現状に即した 介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	介護計画書の期間内に見直しを行い、本人様や家族様に適宜確認を取っている。家族様がお忙しく書面で提示できない時は電話にて説明させてもらい、後日署名捺印を頂いている。	/	/	◎	基本的に6か月で見直しを実施し、毎月のモニタリングで現状確認を行っている。利用者の状態に変化がある場合は、その都度家族や医療機関と話し合い、介護計画の新たな見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月一回の処遇会にて必ず現状確認や現実にとぐわなくなっているかを話し合っている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	顕著な体調変化やADLがダウンされた際には、随時、職員間で情報を共有し、家族様や病院等と相談し必ず見直しを行っている。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	緊急案件の場合は簡単な会議を行い、申し送るように努めている。処遇会として月に1回は必ず利用者様一人一人について話し合いをしている。	/	/	◎	毎月の職員会、その後に各ユニットで処遇会を開催することで、チームケアを行う上での課題解決の場としている。緊急案件があれば、申し送り時に相談や検討を行っている。議事録を作成し、参加できない職員も確認後に押印し、伝達漏れがないよう努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	職員全員が参加できるよう時間や場所を調整している。個々人の気づきや思いを否定しないように自由闊達な意見交換を行っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	月に1回、特別に時間を確保し、ユニットの職員全員がチームケアのための会議に参加するように努めている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	議事録を作成しており、当日体調不良で参加できなかった職員にも周知できている。また、1週間は話所内に掲示し見落としさないような仕組みになっている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送り帳に伝達内容を記載し、毎日出勤時に確認後押印する習慣が身についてきている。また、業務遂行表により夜勤→①勤務、①勤務→②勤務と言うように伝達している。	/	/	◎	面会した家族からの連絡事項を含め、職員間で伝達すべき内容は申し送りノートを活用し、職員は各自確認して押印している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	外泊日時～受診内容や処方薬まで可能な限り微細に申し送るよう努めている。システム上重要な情報はすべての職員に伝わるようになっている。	○	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	レクリエーションや趣味活動などは利用者様との会話の中で希望があったものを優先して1日の予定を組んでいる。	/	/	/	絵画が趣味で、没頭すると昼夜を問わず描き続けてしまう利用者もいるが、体調に影響のない範囲でしたいことができるように利用者と相談しながら支援している。起床や就寝時間、レクリエーションへの参加等、過ごし方は利用者を選んでもらうように努めている。利用者が楽しさを感じることができるよう、接遇面にも配慮しながら声かけを行っている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	レクリエーションなどは個別性の原則に則って画一的ではなく複数の物を準備して選択してもらっている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	利用者様とは常にコミュニケーションを密にして、認知症や介護度に応じて援助の方法を変えている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	年齢やADL等を考慮して起床・就寝時間・入浴時間は生活習慣に合わせて適宜対応させてもらっている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	利用者様の性格に応じて職員との距離感も考慮している。そのうえで個別化の原則に従って個々人とゆっくりお話ができる時間を意図的に設けている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	その方の生活歴も念頭に入れながらちょっとしたしぐさや動き、生活パターンを総合的に判断して把握できるよう職員間でも話し合っている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	内部研修として他事業所の管理者や看護師の監査を受け、指摘してもらうなどプライバシー等の保持が行えるよう勉強している。	○	○	○	人権や尊厳に関する勉強会の開催や処遇委員会の活動を通じ、理解を深めている。声かけはきめ細かい心遣いと丁寧な態度で行うように指導している。居室への出入りはノック・声かけを基本として、利用者により了承を得て入室している。扉を開放して欲しい、常時閉めて欲しい等、利用者それぞれの希望を確認して対応している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	◎	できるだけ他利用者様に聞こえないようトイレ誘導等の声掛けを行っている。一人一人に合った声掛けを心掛けており丁寧な態度をとるように心がけている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	トイレや脱衣所にカーテン等のしきりを設けプライバシーに配慮しながら介助は行っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室の入室の際にはノックを行っている。ドアをオープンにされている利用者様の場合は一声掛けてから入室している。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	日頃より個人情報の漏洩がないよう職員会等で話し合ったり、職員間で注意喚起を行っている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	利用者様に洗濯物を畳んだり、食器を拭いて頂いており、職員も積極的に感謝の言葉をかけるようにしている。地域の特性や先人の知恵についても、日々コミュニケーションの中で学ばせてもらっている。	/	/	/	利用者同士の相性を把握し、席替えをしたり、場合によってはユニットを変える等の対応を行い、誰もが心地良く過ごしてもらえるように配慮している。他の利用者を軽視したような態度や発言をする利用者もいるが、間に職員が入って揉め事に発展しないよう注意を払っている。少し距離を置くことにより関係性が改善した例もある。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者様が他の利用者様の為にお手伝いをしたり、声を掛け合っている。これによって、利用者様同士の心身の状態にもよい影響があるので、積極的にお手伝いをして頂くよう促している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	グループワークを取り入れる際には仲のいい利用者様を隣席にしたり、軋轢のある利用者様間には職員が介在するなどして事前にトラブルを防いでいる。また、面倒見のいい利用者様の近くには孤立しがちな利用者様に座って頂くなどの配慮をしている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	利用者間のトラブルの際には片方の意見だけを聞かず、双方の言い分を傾聴し、レク等を通じ、仲直りの機会を設けている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	ジェノグラム等でキーパーソンや人間関係を可能な限り明示している。コミュニケーションを取り協力体制を密にしている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人様から頻回に発せられる地域の言葉に耳を傾けたり、アセスメントの段階で家族様から生活歴等をお聞きしている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	友人や知人の面会もあり、外泊によって利用者様の地元での生活を想起してもらうようご家族様にご協力いただいている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	訪れてこられたら居室に案内してプライバシーに配慮して遠慮なく自由に話せるようにしている。掃除や礼儀には気をつけている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	毎日職員と屋外散歩に行かれている。天気の良い日は日向ぼっこをされたりして過ごされている。また、帰宅願望のある利用者様の場合は、落ち着けるよう他ユニットや外回りをぐるりと周り気分転換を図っている。その他、夏祭り等の行事参加やお花見ドライブなどの行事を行っている。	△	×	×	年間計画を立て外出行事を実施し、家族との外出や外食を定期的に行っている利用者もいる。現在2階ユニットの利用者は、隣接する施設のエレベーターを利用しなければ1階に降りられないため、自由に戸外へ出られるよう早めの改修が望まれる。重度の利用者も含め、ベランダや玄関周りでの外気浴や散歩を行っているが、取り組みが日常的に実施できるよう改善を図って欲しい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	地域の盆踊り、夏祭りや敬老会など地域の行事には積極的に参加して頂いている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	レクリエーションの過程で屋外に出て日光浴などを楽しんで頂いている。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	◎	本人様や家族様の意向を汲み、紫陽花や桜を観にドライブを楽しまれている。また家族様と墓参りに行かれる方もいらっしゃる。	/	/	/	
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	定期的に認知症の中核症状や周辺症状等の勉強会を行い、個別化の原則や傾聴する姿勢に重きを置き、利用者様の状態把握を行い介護にあたらせてもらっている。	/	/	/	自分でできることはできるだけ利用者にしてもらうように支援しているが、対応する職員やその日の状態によっては介助を希望される場合もあり、利用者の体調にも配慮しながら対応している。半年ごとにできること・できないことについてアセスメントを見直し、適切な介助方法を検討している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	ラジオ体操や口腔体操を行った後、下肢訓練として廊下歩行や手行き歩行、簡単な筋肉トレーニングを行い身体機能の維持・向上を図っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	洗濯物畳みや食器拭き洋服の更衣など本人様の出来ることはご自分でしてもらっている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	利用者様個々人の能力を鑑み食器拭きやテーブル拭き、片付けなどの役割を担ってもらっている。	/	/	/	積極的に家事を行ったり、絵画や歌を楽しむ利用者もいる。利用者ができそうな作業に誘い、気持ちに刺激を感じてもらえるように支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	行事等で使う道具作成や準備など、職員が付き添って一緒に創作をしている。また、創作物を家族様にプレゼントする行事を実施している。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	◎	学校の運動会や敬老会への参加、ボランティアとの交流、地域の方々の協力で子供神輿や獅子舞の鑑賞を行っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	本人様の好みを考慮し、家族様に協力いただき、一緒に季節感のあるコーディネートを心掛けている。	/	/	/	季節に合った衣類選びのサポートや、出張理美容サービスを活用している。散髪や毛染めを希望に応じて行い、身だしなみが整うように配慮している。重度な状態であっても、利用者や家族と相談しながら好みを取り入れた支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	入浴前日等に本人様の好みで服を選んでいただき、一緒に準備をしている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	声掛けや選択肢の提示を行い、本人様への確認及び相談をしたうえで支援している。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時はアウターに配慮し、季節に合わせスカーフやマフラーを添えたり大切にされている衣類と一緒に選んでいる。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	整容の乱れや汚れがあれば本人様のプライドを傷つけないように言葉等を吟味して支援している。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	家族様に協力してもらい、希望があれば本人様行きつけの美容室に通ってもらっている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	自力でできることは本人様に行って頂き出来ないところは本人様の好みを勧誘して、乱れているところはすぐに整容を行っている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	認知症の方における食事の意味合いの大きさを内部や外部研修で学んでいる。	/	/	/	業者から調理済みのものが届くため、職員は各ユニットで炊飯と汁物の準備を行っている。予め決まっているメニューであり、利用者のリクエストに応じた細やかな変更はできないが、お花見弁当や芋炊きなど、季節行事の際に工夫して提供している。調査時には、どの利用者も食卓で配膳を待っている状態であり、食事を楽しむプロセスの一つとして積極的に準備や片づけに参加してもらえるよう努めて欲しい。入居時のアセスメントで好みやアレルギーの有無については把握している。食器は事業所で用意したものを使用しているが、食器の選び方や盛り付けに工夫を加えることで、華やかで楽しい食卓を演出できるのではないかと感じられた。職員は、食事のサポートや見守りを行っているが、利用者の食後に休憩をとっており、食事を共にしていない。重度の利用者も他の利用者と共に香りや雰囲気を楽しみながらリビングで過ごしていた。給食会議を開催し、食事に関する話し合いを実施している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	調理の過程における台拭きや食器拭き等の後片付けと一緒にやっている。	/	/	△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	利用者様に積極的に家事手伝いの声掛け・参加をしてもらっている。最近よく手作りおやつの特ピンギングをしてもらっている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入居時のアセスメントやそのあとの食事によって把握し処遇会等で担当者の気づき等を検討している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	管理栄養士によって献立作り、盛り付け工夫のアドバイスをもらって、それを調理に活かしている。また、夏にはかき氷、秋には芋炊き会など季節感のあるイベントも行っている。	/	/	△	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いりどりや器の工夫等)	○	利用者様に合わせて食器の重さを配慮したり、個人個人の身体状況に合わせた食事作りをしている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	利用者様持ち込みの湯飲みなどほぼ決まったものを使用している。	/	/	△	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさげなく行っている。	◎	見守りや介助を行いながら気づいた点などは処遇会などで報告しあっている。また本人様の食べるペースに合わせてゆっくり食べて頂けるよう時間も配慮している。	/	/	×	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理場と食堂に近いこともあり、利用者様に視覚的にも嗅覚的にも感じ取れる雰囲気になっている。また、盛り付けは見えやすいところで行っている。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	個別に必要なカロリー(ご飯の量)や個人の適性な量等を書いた食札を導入して栄養バランスを考えている。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	水分摂取量の少ない利用者の家族様の協力をいただき、ジュースやヨーグルトなど個人の嗜好に合わせてものを選び、脱水や低栄養を防いでいる。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	栄養スクリーニングを行っており、管理栄養士から指導を受けたり、関連施設間の給食会議に参加している職員からも食に関するアドバイスを受けている。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食材を適温に管理し、冷蔵庫内の整理整頓を行い、調理が終われば食器やまな板等をハイターで消毒して衛生管理に努めている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	内部研修や外部研修で積極的に題材として取り上げ職員間で頻繁に勉強しあっている。				アセスメント表では、義歯の有無の記載があり、セルフケアが行える利用者にも声かけを行って確認する職員もいた。定期的に全利用者の口腔内の健康状況を記録し、把握していくことが望まれる。痛みや不調の訴えに応じて、家族と連携して歯科受診につなげている。必要な介助については、先輩職員から新人職員へ口頭で指導したり、申し送りノートで情報共有する形をとっており、利用者にもできることをやってもらいながら支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	○	口腔ケア時に義歯のつけ具合や状態を確認している。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	歯周病のある利用者様は歯科医師よりブラッシングや歯間ブラシの使用の指導を受けている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	夕食後の口腔ケアをご自分でできる利用者様も介護が必要な利用者様も義歯洗浄剤につけて保管している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）	○	歯間ブラシ等を管理できない利用者様は、その都度声掛けが必要だが、基本的には自力にて口腔ケアを行ってもらい職員は側面的なアドバイスに留めている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	口腔内や義歯の異常を感じたときは早め早めに歯科医を受診してもらっている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	認知症高齢者にとつての排泄の重要性は勉強会で話し合っており、できるだけ、おむつの無い排泄を心掛けている。				夜間はポータブルトイレを使用する利用者もいるが、声かけによりトイレでの排泄が可能な利用者がほとんどである。立位がとれない利用者に対しては、職員2名体制で対応している。またアセスメントの実施により、その時々状態に合った排泄用品の選定を行っている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	内部研修及び外部研修により便秘にまつわる弊害等は理解できている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	◎	個別に排泄パターンを把握している。排尿量や排便量は具体的に記録するようにしている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	利用者様には定期的にトイレに行かれるよう声掛けや、誘導を行なっている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	水分補給や腸の蠕動運動を促すように努めている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	パターンや兆候を見て排泄誘導を心掛けている。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人の意思や家族様の意見を確認して職員間で検討し、看護師との協力のもと、日中と夜間とでおむつやパッドの使い分けを行っている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	○	臨機応変にしている。利用者様の状態をしっかり観察して対応したい。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	○	腹部マッサージを取り入れている。排便を促し自然に出るように工夫を行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	◎	週二回の入浴を実施しており、入浴の順番やアセスメント表に記載している、入浴の長さや好みの湯温等、利用者様の希望に沿って行っている。	◎		○	週2回の利用日は事業所で決めているが、利用者の気分や体調によって利用日を変更したり、臨機応変な対応に努め、希望に応じて長さや湯温を調節しながら支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	アセスメントで拾い上げた希望を実現すべく、都度、声掛けを行い湯船に入る時間を考慮したりしている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	本人様が出来るところはして頂き、出来ないところだけ行う、側面的な援助に努めている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	処遇会で議題に上げ話し合っている。介護する人を変えてみたり時間をずらすなどの工夫を行っている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックをして利用者様の身体状況をしっかり見極め入浴してもらっている。入浴後もバイタルに変化がないか様子観察を行っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜勤者からの申し送りや処遇会によりどの職員も利用者様一人一人の睡眠パターンを把握している。				利用者は概ね安眠できている。睡眠導入剤が処方されている利用者については、主治医とも相談し、できるだけ少量でコントロールできるよう慎重に支援している。利用者にとって快適な状態での暮らしになることを最優先に、適切に処方をしてもらうため主治医とは十分に相談している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	夜間は水分補給、日中はレクリエーションを十分に行ってもらうことにより気分転換も図られている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	現在、なるべく睡眠導入剤には頼らず、日中はホールにて身体を動かしてもらえるように支援している。また、それでも必要な時は家族や、主治医に相談して処方してもらっている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	自室の他にも長椅子やソファーなど本人様が一番落ち着かれる場所で休まれている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	いつでも可能な状態にはしているが利用者様からのご要望はない。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	随時、手紙を書くよう促してはいるが現状あまりできてはいない。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	精神的に不安定になられた利用者様には家族様とお話する機会を設けている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	はがきや絵葉書などは各担当者が確実に本人様に渡すよう申し送り帳に記載してからお渡ししている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	家族様はかなり理解を示してくださり定期的に電話や手紙を送ってくださる方が多い。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	認知症利用者様にとって買い物等でお金を使ったりされることがどういう影響を及ぼすか等勉強している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	家族様に必要に応じて協力していただき、外泊や外出時にお買い物に行っていたできるようにしている。利用者様と家族様の要望に応じて、利用者様が金銭を管理をされている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	外泊や外出時に家族様に必要に応じて協力していただきお買い物に行っていたできるようにしている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	随時、家族様と話し合い、所持や管理について納得していただいている。また、お金の所持や管理については、ご家族に協力していただいている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	家族様と話し合い納得していただいている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。（預り金規程、出納帳の確認等）。	◎	預り金管理規程があり、管理方法は整えている。心身の状態により、管理ができない利用者様には会社が立て替え払いをしている。（往診・散髪・行事の弁当等）				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	医療施設や近隣の施設と協力関係を構築し、家族様の希望があれば介護タクシーを利用してもらったり、利用者様に適切な介護サービスを随時提供できるようにしている。	◎		○	家族による受診等の外出時、介護タクシーの利用を提案した例がある。快適に外出ができると喜ばれており、家族の負担軽減にも配慮して支援するよう心がけている。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者が家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽 に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をして いる。	○	玄関にユニット名を書いている。また丁寧に清掃も行っている。	○	○	△	1階ユニットは、スロープを設置して段差を解消し、植木や花壇の手入れが 行われ、利用者と一緒に作った小物が飾られた和やかな玄関まわりとなっ ている。2階ユニットは現在改修中であり、正面玄関の利用ができず裏口を 使用しているため、通行に注意が必要で、気軽に出入りすることは難しい。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物 品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。 （天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要な ものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な 雰囲気をそごような設えになっていないか等。）	◎	季節に応じた壁面づくりによって季節感を感じてもらっている。また、ホールにはソファーを置き ゆったりと寛げるようにしている。また、温度・湿度計にて常に空調には気を配っている。	○	○	○	1階ユニットはキッチン・リビングを改修し、広々とした空間になっている。リ ビングや廊下にソファやベンチを設置し、利用者は思い思いの場所でのん びりと過ごすことができている。スペースが限られている2階ユニットでは、 整理整頓に努め、快適に過ごすことができるように工夫している。廊下には 絵画が得意な利用者の作品を展示したり、季節感のある手芸品等を飾って いる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮 し、掃除も行き届いている。	◎	随時換気も行い気持ちの良い空気を吸っていただけるよう努めている。	/	/	○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働き かける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生 活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫し ている。	◎	花を生けたり季節感のある壁面画づくりを利用者様の手で作ってもらい、レイアウトも利用者様に 考えてもらっている。	/	/	◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気 配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしてい る。	◎	気の合う利用者様同士が話しやすい席順にしたり、長椅子やソファでも寛げる空間を創出しプ ライベートに配慮している。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工 夫している。	○	トイレにはカーテン、浴室には暖簾を設置しプライバシーの保持を行っている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている。	◎	家族様に利用者様のお気に入りの衣服を持ってきてもらったり、好みに合わせて居室をレイアウト し、住み慣れた環境を作りを行っている。	○	/	○	自宅より使い慣れた家具を持参している利用者も多く、写真や絵を飾って 快適な空間となるよう工夫している。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかる こと」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送 れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレや居室などが一目でわかるようにネームプレートを分かりやすい形で表示している。	/	/	○	居室入口の表札やトイレの表示など、利用者が迷わずに自分で移動がで きるよう工夫している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討 し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫を している。	◎	危険と思われるものを利用者様が使わる時は職員が見守りが出来るよう目の届く範囲で行って もらっている。また、分かり難いものは同じ位置に置き分かりやすくしている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつで も手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれて いる。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の 品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	雑誌や新聞、個人用の湯飲み、裁縫道具等、本人様の使い慣れたものを居室に置いたり、ホール の分かりやすい位置に置き、いつでも使っていただけるようにしている。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟) の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解してい る。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの 異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきら め・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメ リット等)	◎	職員は勉強会や外部研修に参加して鍵をかけることのデメリットの意識付けを行っている。利用者 様の個別の状態像を職員間で共有し、処遇などでなぜ利用者様は外に出たがるかの理由や要 因を話し合って鍵を掛けないケアに取り組んでいる。	◎	◎	△	勉強会で、鍵をかけることの弊害について学びの機会を設けている。施錠 はしていないが、2階ユニットの改修にあたり、通行に注意が必要な裏口を 使用したり、隣接する高齢者住宅のエレベーターを利用しなければ屋外に 出られないため、利用者が自由に出入りすることが難しい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っ ている。安全を優先するために施錠を望む家族に対して は、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族様に対しては入居時に説明をしており、施錠を望む家族様に対しては、身体拘束適正化委員 会において作成しており指針を閲覧できるようにしている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理 的圧迫をもたらないよう、日中は玄関に鍵をかけなく てもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把 握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	利用者様の外出をしたがるパターン(帽子を急に被ったり、他利用者様の家族様が来られ一緒に 外出をされた時等)を見逃さず、察知できるよう職員間で連携を取っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や 病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入居時に面接記録や健康診断書にて既往歴・現病名を把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎日バイタルチェック行い、全身の様子を踏まえて、観察し職員間で情報の共有を図っている。記録はパソコン入力、または血圧、食事、排泄などの数値を記入し、異常が把握できるようにしている。パソコン入力し異常値は赤字で入力される。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	異常があれば早めに医療機関、かかりつけ医に受診して頂いている。家族様、ケースワーカーなどを通し、医師からの指示のもと、重症化しないよう援助し必要な場合は入院に繋げている。				
31	かかりつけ医等の 受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	一人一人の今までの受診内容を理解し現状を家族様に伝え相談し、希望される病院へ受診するよう支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	利用者様、家族様の意向を伺いそれぞれのかかりつけ医へ受診して頂いている。月に1回から2回の往診にて投薬等を行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	家族様や介護タクシーなどを利用し通院して頂いている。異常時は必要に応じてバイタル食事量、体重等をグラフ化し持参してもらい、医師からの情報を頂きスタッフ間で内容を共有している。				
32	入退院時の医療機関との 連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	利用者様のホームでの生活状況を知っていただく内容をサマリーとして情報を共有している。 (ADL、病状。服薬状況、精神状態、排泄状況、認知度、介護度等)				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院中の状態を家族様やMSW・看護師長を通し、早期退院できるよう相談したり、実際に病院に伺い面会して回復状況を確認している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	定期受診時、往診時、緊急時等、利用者様の日常の状態や体調の変化、既往歴、現病歴、服薬状況、ADL等をこまめに報告し、助言を頂くなどの協力体制を構築している。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	利用者の変化や異常をすぐに口頭や申し送り帳にて伝えスタッフ間で共有できるようにしている。また、看護師に必ず情報が伝わり、医師に相談できる体制としている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	オンコールマニュアルによってその体制を取っている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	申し送り帳を有効活用している。身体的、精神的状態を観察し把握に努め早めの対応を行っている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	担当利用者様のアセスメントに記載する欄があり、処遇会等で話し合っている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	薬を一包化して服用しやすくしている。朝昼夕の見分けがしやすくなるようにラインを引き、配薬のボックスの工夫やダブルチェックし、誤薬しないように注意している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	心身の安定をはかれるように、薬の調整をして援助している。向精神薬の副作用によるふらつき、便秘の誘発などを理解し対応している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	副作用等を理解したうえで、血圧、体温、排泄などの記録を把握し異常があれば情報の提供を行っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重度化した場合は、状態変化や段階によって家族様の意向を確認している。				看取り指針を作成し十分に検討しているが、現状としては看取りは実施していない。管理者は、設備の面もあり、重度化や終末期の利用者に対する支援については課題が多いと感じている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化した場合は、医療機関やご家族様と話しあいを持ち今後の方針の話し合いをしている。	○		△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の方職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	管理者は状態変化があった場合は職員間、病院のスタッフと話し合いを行っており、支援の過程は病院受診で対応している。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居時・異常・急変時に事業所においてできることと出来ない事をお伝えし、GHでの共同生活が困難になった方には特養の入所を支援したい。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	終末期を迎える方は、病院家族と連絡を密にし、変化があった場合は、医療機関へ連絡し対応している。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	○	不安を考慮し、それぞれの家族様の事情を考慮し対応している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	感染症対策マニュアルを参考にし、内部研修・外部研修棟で学習し実践できるようにしている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症対策マニュアルを参考にしており。予防のために温度・湿度の管理、トイレ、手すり、テーブル等を毎日数回消毒を行っている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	行政からの通知や、インターネットを通じて、最新情報を入手している。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症の時期になると県のHPより感染症発生状況を確認している。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	感染症の時期になると、不急の面会を控えていただいたり、共有スペースではない所で面会をしてもらっている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族と職員は忌憚なく話していただけるよう信頼関係を築くことによって本人様を支えることができている。				家族に対し運営推進会議や行事参加の誘いを積極的に行っている。就労している家族も多く、参加者は限られているが、面会の時間帯について柔軟に対応し気軽に面会に来てもらえるよう工夫している。写真入りのユニット通信を事業所内に掲示して面会時等に見てもらうことや報告書を郵送している。事業所の運営上の事柄について家族が理解を深めることができるように伝え方の工夫が必要であり、特に関わりの深い職員の異動などの報告について検討して欲しい。家族の面会時には、積極的な声かけに努め、気軽に思いが伝えやすいように配慮している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。（来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等）	◎	家庭的な雰囲気であるよう努めている。家族様が来訪されたら居室に案内してプライバシーに配慮しつつ和んでいただけるよう心掛けている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。（食事づくり、散歩、外出、行事等）	◎	夏祭りやお花見以外にも家族様に積極的に働きかけ各種行事に参加してもらっている。また、ボランティアとして日本舞踊等の特技を披露してもらっている。	◎		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。（「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等）	◎	隔月で「恵須栄便り」を発行して行事等の写真を中心に報告している。また、ユニット通信を毎月各担当者が記入し家族様に送付して利用者様のご様子を報告している。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	運営推進会議などで家族様から疑問に思うことや知りたいことの質問を受け、それを報告できるように努めている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。（認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等）	○	面接段階やアセスメントにおいて、家族様と本人様のこれまでの関係を把握し、本人様の理解に努め家族との関係を良いものとなるように支援している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。（行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等）	◎	行事の案内状を送付したり、当ホームのHPIにて行事の参加を促している。また、設備の改修等も直接お話してご説明しご理解とご協力を頂いている。	×		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。（家族会、行事、旅行等への働きかけ）	△	現在、家族間の交流は限局的であるが、今後は多くの家族様を巻き込んで家族会等への働きかけを積極的に推奨したい。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	高齢の利用者様が多い為、疾病等から考えられる重篤な病気のリスクや事故の可能性を説明を家族様にさせていただいている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	具体性はやや欠けるかもしれないが、来訪された際にはどの職員も積極的に声掛けをさせてもらっている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	具体的に現状に沿った説明を行い、疑問等あれば質問していただき理解しての納得を得るようにしている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	契約に基づく退居について決定過程を十分説明し、なお今後のことについても家族等と話し合い、安心して退居先に移行できるよう支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。（食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等）	○	契約時は、重要事項説明書で説明し、料金改定時は口頭で説明し、同意書を得ている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域の人に参加してもらい、説明を色々行い納得してもらったうえで設立している。出来上がった時には見学や遊びに来て頂いている。		○		地域の小学校の学習発表会を見学に行ったり、子供みこしが事業所に来てくれる等の交流がある。事業所が実施している芋炊きには、家族の他に地域の方にも参加してもらっている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	◎	散歩等で近所で会う人には挨拶をしている。盆踊り大会、芋炊き、お神輿、お祭りなどは地域の人達と交流が出来ている。		△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	行事に参加してくださる家族様には行事を通じて顔なじみの関係を構築するよう努めている。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	地域の人にお声掛けはして、気軽に立ち寄っていただける雰囲気作りは行っている。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	散歩で外に出たときに地域の人と会えば世間話をすることは多い。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	◎	定期的にボランティアの人をお呼びし利用者様と歌を歌っていただいたり、楽器を演奏してもらったりしてと楽しい時間を過ごしている。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	◎	市の相談員様は定期的に来られ利用者様とお話しされたりしている。また関連施設では体重測定機器をお借りするため利用者様と訪問している。				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	運営推進委員会には利用者様、家族様、民生員会様、市の相談員様、地域医療連携室関係様、包括支援センター様、地域の皆様等に参加して頂いている。	○		○	管理者は参加者にとって魅力的な内容になるよう努めている。利用者の生活状況の報告や季節に応じた情報提供、評価への取組みについて報告している。運営推進会議で出された意見等が、どのように運営に活かされているのか参加者には理解が難しいとの意見があるため、伝え方に工夫が必要である。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	△	利用者様の近状報告や行事等のサービスの一環を報告しているがすべてが網羅されているまでには至っていない。			○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	外部評価・自己評価の内容等運営推進会議において報告している。		×	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	参加メンバーの日程について調整を行ったり、事前にアナウンスしたりして参加しやすいよう努めている。		○		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	いつでも閲覧可能なようにしており、地域包括支援センターには毎回報告をしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	事業所名の「エスエイ」を頭文字にしたものを掲示し、常に職員間で共通認識が持てるよう、朝の朝礼で復唱して事業所理念を共有できるようにしている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	外部から来訪された方々にも見やすい場所に掲示し、伝えるようにしている。	×	×		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	法人内での研修、関連施設内での研修、完全な外部研修のいずれにも職員の力量や特性に応じて参加できるようになっている。				管理者は必要に応じて職員との面談を行い、個別に話を聞く機会を持つよう努めている。代表者も事業所を頻繁に訪れており、管理者だけでなく職員とも交流ができています。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	実務において、個人的に指導する期間を設けている。また、毎日の業務のなかで、介護技術向上につなげるよう指導をしている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	毎月の自己評価で職員の努力目標をあげてもらい、それに対して実行できているか評価している。また、休憩時間の取得簿や休憩室の設置により労働時間や職場環境においても改善されている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	近隣の福祉施設と行事やイベントにおいて協力したり、お互いに勉強会に参加したりして、意識や知識の向上を図る取り組みを行っている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	管理者役職者は職員にストレスや悩みトラブルがないか会議や個人面接を行い対応している。また問題を解決する取り組みや施策を話し合い実施している。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	身体拘束適正化委員会や接遇から高齢者虐待について勉強会を行っている。				身体拘束廃止に関する指針を作成しており、気になる声かけ等があれば職員同士声をかけ合っている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	申し送りや処遇会において利用者様の現在状況について話し合いケアに反映させるよう努めている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	ユニットリーダーやホーム長に速やかに報告をし、職員への指導・教育プログラムを実施する体制作りを構築している。			◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	定期的に管理者、役職者、看護師が職員及び利用者様の心身状態を観察、注意を払っており、それをもとに代表者へ報告・連絡を行っている。				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	定期的に身体拘束廃止に関して学びその指針を常時閲覧できるようにして職員間で話し合ったり勉強会にて理解している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束適正化検討委員会にて実際に行っている介護を検証している。				
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	身体拘束が利用者様の心理状態に多大な影響を及ぼすことを内部研修・外部研修を通じて十分職員間で検討しあっている。家族様から施錠等の要望がある場合はその都度説明してケアの方法について話し合っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	勉強会・内部研修・外部研修において知識の習得に努めている。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	家族様から相談が寄せられた場合は居宅介護支援事業所及びケアマネージャー等専門員と連携し、適切なアドバイスが行えるように努めている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センターのスタッフを含む西条市介護支援専門員連絡会に参加して成年後見制度やその他の制度を外部の勉強会として学び、情報交換を行っている。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	内部研修や外部研修により学んでいる。また、研修の資料をマニュアルとして掲示し周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	研修に参加したり、訓練では勉強会でも対応に触れ知識を習得している。急変時対応のDVDがあるのでそれを鑑賞したりして実践力を身につけている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書やヒヤリハットの書式も工夫しあらゆる視点から検証できる体制を整えている。月に一回安全環境委員会で原因究明を行い再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	リスクマネジメントに関しては処遇会の際に十分に話し合い、利用者様にその兆候が見られた時は申し送り帳に各自記載して意識付けをしている。また、居室等の危険箇所を適宜点検している。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応のマニュアルを作成し、職員にも周知し、対応についても検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	必要に応じて、速やかに対応している。また市の担当課にも連絡し、対応策等についてもしてアドバイスを頂けるようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	必要に応じ、対応し良い関係作りに努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	日々、利用者様の意見や要望の収集に努め、相談窓口を設置し、運営推進会議等でも機会を設けている。			◎	利用者や家族からの苦情等に対しては、対応マニュアルを整備しており、対応フロー図も分かりやすく明記されている。職員からユニットリーダー、管理者、代表者へと意見の吸い上げができており、相談体制が整備されている。いずれの場合も、管理者は迅速に対応することを心がけている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	相談窓口を設置し、運営推進会議等で、意見や要望を伝えて頂く機会を設けている。	◎		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	随時、苦情や相談ができる窓口があり、重要事項説明書にも記載し、適時情報提供させていた				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	都度、機会を設け、意見や提案等の吸い上げに努めている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	常に職員の意見に耳を傾け、利用者様本位の支援が行えるように前向きに検討している。			◎	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	サービス評価の意義目的を理解し、全員で日頃から取り組んでいる。				自己評価については職員全員で積極的に取り組んだが、管理者は、家族や地域の方の理解はまだ十分ではないと感じている。報告の仕方を工夫し、評価への関心と理解が得られるような取組みに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	事業所の現状や課題について、毎月の職員会や役職会で話し合い改善に努めている。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	各種会議等で利用者様の現状や課題・要望について話し合い、利用者様が地域に参加できるような取り組みや、心身の状態に合わせたケアサービスの提供に取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	目標達成計画は掲示板に掲示するなどし、評価結果表をいつでも閲覧可能な状態にして備え付けている。	×	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	①については、処遇会で利用者様への取り組みの結果を報告し、より良いケア サービスの提供に努めている。③は、避難訓練に地域の方々4名に参加していただき、地域の声を職員会議等で報告する。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	防災マニュアルを作成し、閲覧可能な状態にしている。				近隣の施設や事業所の協力も得て避難訓練を実施している。今後は、家族や地域の方との訓練の実施や、協力支援体制の構築に向けた取組みに期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中、夜間帯の時間を想定した訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	地域福祉施設等と協力し、施設設備の点検を定期的に行い、備蓄・備品の整備を行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	合同の訓練や話し合いは行っており、協力支援体制の構築に努めている。	×	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	消防や地域の福祉施設や会社に避難訓練に参加していただいている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	○	行事に参加されている時、地域の人に認知症ケアについて、情報発信している。				地域の方から認知症に関する個別相談が寄せられる機会が増えてきている。今後は、地域に向けて、相談支援に対応できる事業所であることをさらに積極的に発信、周知していくことで、地域のケアの拠点としての活動の広がりにつながることに期待したい。他事業所の行事イベントに参加するなどの地域活動が行えており、今後も地域の関係機関と協働しながら活動していくことに期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	地域の人から、介護について相談される場合が時々あり、お話を聞き、適宜アドバイスできるように努めている。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	△	行事で事業所に招待し、地域の人に来ていただき交流を図っている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	近隣施設の介護職員の受け入れを行い、相互の人材育成を推進している。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	◎	他施設の行事やイベントに参加したり地域の祭りや敬老会等にも参加して、地域活動に関われるように努めている。			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

Ⅰ.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

Ⅱ.家族との支え合い

Ⅲ.地域との支え合い

Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年11月22日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3871200139
事業所名	グループホーム恵須栄
(ユニット名)	
記入者(管理者)	
氏 名	佐伯 恵子
自己評価作成日	平成30年10月28日

【事業所理念】 地域の中 エ 笑顔満開で ス 健やかに エ 円満な日々を イ いきいきと過ごせる場所 私達は地域の中で一生懸命に生 きる姿を真心を込めて支え、地域 の中で笑顔の花を咲かせます。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①理念に即した利用者様の現状に合わせたケアサービスの提供について、職員会・ユニット会(処遇会)・勉強・役職会・各種委員会活動を通じて職員全体で話し合いを行っている。それにより決まったケア方針を職員が共有・実践できるようにしている。 ②運営推進会議の議事内容を家族様に郵送し、ご報告している。次回の運営推進会議ご案内を同時にさせて頂き、参加を促している。また、お電話により、家族様に出席のお願いをしている。 ③避難訓練は近隣の会社に勤めている方や福祉施設に勤めている方等4名の地域の方が参加し、意見を頂いている。職員の緊急連絡網の実践訓練を行った。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 開設後17年が経過する事業所は、大明神川そばの静かな住宅街にあり、敷地内には高齢者住宅を併設している。本来3ユニットであるが、現在は改修中のために2ユニットが稼働している。1階ユニットの共用空間の改装が完了し、広々とした対面キッチンとなったことで、食事の準備をする職員の様子に関心を持ったり、楽しみにする発言も増え、利用者の反応が多く感じられるようになった。目標達成に向けた課題には地道に取り組んでおり、地域のケア拠点としての活動が広がっていくことに期待したい。
--	---	---

評 価 結 果 表

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、 意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。			○	/	○	入居時に利用者や家族から聞き取ったり、生活の中で要望を伺い、把握した情報をアセスメントシートにまとめている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。			/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。			/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。			/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。			/	/	/	
2	これまでの暮らしや 現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。			/	/	○	利用者や家族、これまで利用してきたサービス事業所から情報を得ており、これまでの暮らし方などについて把握している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。			/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。			/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)			/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。			/	/	/	
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。			/	/	○	把握した情報をもとに、処遇会や日々の申し送りで話し合い、利用者や家族の思いに沿えるように検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。			/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。			/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人が より良く暮らすための 介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。						家族の来訪時に意向を伺い、課題等を共有している。処遇会で把握した意向を踏まえた上でプランについて検討し、家族には運営推進会議や行事参加等の面会時に意見をもらっている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。			○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。						
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。						
5	介護計画に基づいた 日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。					○	処遇会で介護計画の内容を職員間で共有し、毎月モニタリングしている。毎日の支援記録は電子化され、職員が個々に入力しているが、記入量や内容などについて職員による個人差がある。介助の方法や声かけについて職員から意見も出されているが、利用者の暮らしの様子や支援内容のより具体的な記録と併せて職員の気づきやアイデアの記録も望まれる。また電子記録のメリットを活かした見直しや振り返りができるように検討して欲しい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。					○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。					△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。					△	
6	現状に即した 介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。					◎	基本的に6か月で見直しを実施し、毎月のモニタリングで現状確認を行っている。利用者の状態に変化がある場合は、その都度家族や医療機関と話し合い、介護計画の新たな見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。					◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。					◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。					◎	毎月の職員会、その後に各ユニットで処遇会を開催することで、チームケアを行う上での課題解決の場としている。緊急案件があれば、申し送り時に相談や検討を行っている。議事録を作成し、参加できない職員も確認後に押印し、伝達漏れがないよう努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。						
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。						
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。					◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。					◎	面会した家族からの連絡事項を含め、職員間で伝達すべき内容は申し送りノートを活用し、職員は各自確認して押印している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)			○			

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。						絵画が趣味で、没頭すると昼夜を問わず描き続けてしまう利用者もいるが、体調に影響のない範囲でしたいことができるように利用者と相談しながら支援している。起床や就寝時間、レクリエーションへの参加等、過ごし方は利用者を選んでもらうように努めている。利用者が楽しさを感じることができるよう、接遇面にも配慮しながら声かけを行っている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)					○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。						
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)						
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。					○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。						
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。			○	○	○	人権や尊厳に関する勉強会の開催や処遇委員会の活動を通じ、理解を深めている。声かけはきめ細かい心遣いと丁寧な態度で行うように指導している。居室への出入りはノック・声かけを基本として、利用者により了承を得て入室している。扉を開放して欲しい、常時閉めて欲しい等、利用者それぞれの希望を確認して対応している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。					○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。						
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。					○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。						
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。						利用者同士の相性を把握し、席替えをしたり、場合によってはユニットを変える等の対応を行い、誰もが心地良く過ごしてもらえるように配慮している。他の利用者を軽視したような態度や発言をする利用者もいるが、間に職員が入って揉め事に発展しないよう注意を払っている。少し距離を置くことにより関係性が改善した例もある。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。						
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。					○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。						

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。						
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。						
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。						
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。						
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)			△	×	×	年間計画を立て外出行事を実施し、家族との外出や外食を定期的に行っている利用者もいる。現在2階ユニットの利用者は、隣接する施設のエレベーターを利用しなければ1階に降りられないため、自由に戸外へ出られるよう早めの改修が望まれる。重度の利用者も含め、ベランダや玄関周りでの外気浴や散歩を行っているが、取り組みが日常的に実施できるよう改善を図って欲しい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。						
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。					△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。						
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。						自分でできることはできるだけ利用者にしてもらうように支援しているが、対応する職員やその日の状態によっては介助を希望される場合もあり、利用者の体調にも配慮しながら対応している。半年ごとにできること・できないことについてアセスメントを見直し、適切な介助方法を検討している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。						
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)			◎		○	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。						積極的に家事を行ったり、絵画や歌を楽しむ利用者もいる。利用者ができそうな作業に誘い、気持ちに刺激を感じてもらえるように支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。			○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。						

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。						季節に合った衣類選びのサポートや、出張理美容サービスを活用している。散髪や毛染めを希望に応じて行い、身だしなみが整うように配慮している。重度な状態であっても、利用者や家族と相談しながら好みを取り入れた支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。						
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。						
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。						
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)			○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。						
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。					○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。						業者から調理済みのものが届くため、職員は各ユニットで炊飯と汁物の準備を行っている。予め決まっているメニューであり、利用者のリクエストに応じた細やかな変更はできないが、お花見弁当や芋炊きなど、季節行事の際に工夫して提供している。調査時には、どの利用者も食卓で配膳を待っている状態であり、食事を楽しむプロセスの一つとして積極的に準備や片づけに参加してもらえるよう努めて欲しい。入居時のアセスメントで好みやアレルギーの有無については把握している。食器は事業所で用意したものを使用しているが、食器の選び方や盛り付けに工夫を加えることで、華やかで楽しい食卓を演出できるのではないかと感じられた。職員は、食事のサポートや見守りを行っているが、利用者の食後に休憩をとっており、食事を共にしていない。重度の利用者も他の利用者と共に香りや雰囲気を楽しみながらリビングで過ごしていた。給食会議を開催し、食事に関する話し合いを実施している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。					△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。						
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。						
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。					△	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)						
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。					△	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。					×	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。			○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。						
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。						
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。					○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。						

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。						アセスメント表では、義歯の有無の記載があり、セルフケアが行える利用者にも声かけを行って確認する職員もいた。定期的に全利用者の口腔内の健康状況を記録し、把握していくことが望まれる。痛みや不調の訴えに応じて、家族と連携して歯科受診につなげている。必要な介助については、先輩職員から新人職員へ口頭で指導したり、申し送りノートで情報共有する形をとっており、利用者にもできることをやってもらいながら支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。					△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。						
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。						
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）					○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。						
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。						夜間はポータブルトイレを使用する利用者もいるが、声かけによりトイレでの排泄が可能な利用者がほとんどである。立位がとれない利用者に対しては、職員2名体制で対応している。またアセスメントの実施により、その時々状態に合った排泄用品の選定を行っている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。						
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）						
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。			◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。						
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。						
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。						
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。						
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）						
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。			◎		○	週2回の利用日は事業所で決めているが、利用者の気分や体調によって利用日を変更したり、臨機応変な対応に努め、希望に応じて長さや湯温を調節しながら支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。						
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。						
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。						
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。						

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。						利用者は概ね安眠できている。睡眠導入剤が処方されている利用者については、主治医とも相談し、できるだけ少量でコントロールできるよう慎重に支援している。利用者にとって快適な状態での暮らしになることを最優先に、適切に処方をしてもらうため主治医とは十分に相談している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。						
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。						
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。						
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。						
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。						
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。						
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。						
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。						
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。						
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。						
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。						
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。						
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。						
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。（預り金規程、出納帳の確認等）。						
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。			◎		○	家族による受診等の外出時、介護タクシーの利用を提案した例がある。快適に外出ができると喜ばれており、家族の負担軽減にも配慮して支援するよう心がけている。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者が家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。			○	○	△	1階ユニットは、スロープを設置して段差を解消し、植木や花壇の手入れが行われ、利用者と一緒に作った小物が飾られた和やかな玄関まわりとなっている。2階ユニットは現在改修中であり、正面玄関の利用ができず裏口を使用しているため、通行に注意が必要で、気軽に出入りすることは難しい。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。）			○	○	○	1階ユニットはキッチン・リビングを改修し、広々とした空間になっている。リビングや廊下にソファやベンチを設置し、利用者は思い思いの場所でのんびりと過ごすことができる。スペースが限られている2階ユニットでは、整理整頓に努め、快適に過ごすことができるように工夫している。廊下には絵画が得意な利用者の作品を展示したり、季節感のある手芸品等を飾っている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。			/	/	○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。			/	/	◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。			/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。			/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。			○	/	○	自宅より使い慣れた家具を持参している利用者も多く、写真や絵を飾って快適な空間となるよう工夫している。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。			/	/	○	居室入口の表札やトイレの表示など、利用者が迷わずに自分で移動ができるよう工夫している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。			/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）			/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）			◎	◎	△	勉強会で、鍵をかけることの弊害について学びの機会を設けている。施錠はしていないが、2階ユニットの改修にあたり、通行に注意が必要な裏口を使用したり、隣接する高齢者住宅のエレベーターを利用しなければ屋外に出られないため、利用者が自由に出入りすることが難しい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。			/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）。			/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や 病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。						
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。						
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。						
31	かかりつけ医等の 受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。			◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。						
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。						
32	入退院時の医療機関との 連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。						
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。						
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。						
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。						
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。						
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。						
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。						
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。						
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。						
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。						

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。						看取り指針を作成し十分に検討しているが、現状としては看取りは実施していない。管理者は、設備の面もあり、重度化や終末期の利用者に対する支援については課題が多いと感じている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。			○		△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の方職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。						
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。						
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。						
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）						
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。						
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。						
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。						
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。						
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。						

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。						家族に対し運営推進会議や行事参加の誘いを積極的に行っている。就労している家族も多く、参加者は限られているが、面会の時間帯について柔軟に対応し気軽に面会に来てもらえるよう工夫している。写真入りのユニット通信を事業所内に掲示して面会時等に見てもらうことや報告書を郵送している。事業所の運営上の事柄について家族が理解を深めることができるように伝え方の工夫が必要であり、特に関わりの深い職員の異動などの報告について検討して欲しい。家族の面会時には、積極的な声かけに努め、気軽に思いが伝えやすいように配慮している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。（来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等）						
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。（食事づくり、散歩、外出、行事等）			◎		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。（「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等）			◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。						
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。（認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等）						
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。（行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等）			×		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。（家族会、行事、旅行等への働きかけ）						
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。						
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。					○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。						
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。						
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。（食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等）						

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいや ネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する 市町の日常生活圏域、 自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。				○		地域の小学校の学習発表会を見学に行ったり、子供みこしが事業所に来てくれる等の交流がある。事業所が実施している芋炊きには、家族の他に地域の方にも参加してもらっている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）				△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。						
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。						
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。						
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）						
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。						
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。						
40	運営推進会議を 活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。			○		○	管理者は参加者にとって魅力的な内容になるよう努めている。利用者の生活状況の報告や季節に応じた情報提供、評価への取組みについて報告している。運営推進会議で出された意見等が、どのように運営に活かされているのか参加者には理解が難しいとの意見があるため、伝え方に工夫が必要である。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。					○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。				×	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。				○		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。						

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。						
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。			×	×		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。						管理者は必要に応じて職員との面談を行い、個別に話を聞く機会を持つよう努めている。代表者も事業所を頻繁に訪れており、管理者だけでなく職員とも交流ができています。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。						
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。						
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)						
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。			○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。						身体拘束廃止に関する指針を作成しており、気になる声かけ等があれば職員同士声をかけ合っている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。						
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。					◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。						
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。						
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。						
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。						

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。						
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。						
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関（社会福祉協議会、後見センター、司法書士等）との連携体制を築いている。						
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。						
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。						
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。						
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。						
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。						
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。						
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。						
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。（法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等）					◎	利用者や家族からの苦情等に対しては、対応マニュアルを整備しており、対応フロー図も分かりやすく明記されている。職員からユニットリーダー、管理者、代表者へと意見の吸い上げができており、相談体制が整備されている。いずれの場合も、管理者は迅速に対応することを心がけている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。（法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等）			◎		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。						
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。						
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。					◎	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。						自己評価については職員全員で積極的に取り組んだが、管理者は、家族や地域の方の理解はまだ十分ではないと感じている。報告の仕方を工夫し、評価への関心と理解が得られるような取組みに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。						
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。						
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。			×	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。						
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）						近隣の施設や事業所の協力も得て避難訓練を実施している。今後は、家族や地域の方との訓練の実施や、協力支援体制の構築に向けた取組みに期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。						
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。						
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。			×	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）						
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）						地域の方から認知症に関する個別相談が寄せられる機会が増えてきている。今後は、地域に向けて、相談支援に対応できる事業所であることをさらに積極的に発信、周知していくことで、地域のケアの拠点としての活動の広がりにつながることに期待したい。他事業所の行事イベントに参加するなどの地域活動が行えており、今後も地域の関係機関と協働しながら活動していくことに期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。				×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）						
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。						
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）					△	